令和元年度(2019 年度) 横須賀市立小・中学校学習状況調査の結果の概要について

平成 31 年４月 11 日(木)～19 日(金)に、小学校３～６年生と中学校１～３年生を対象に「横須賀市立小・中学校学習状況調査」を実施しました。

横須賀市では本学習状況調査について、限られた教科および学年での実施であることや、それぞれの問題が学習指導要領で定められている学習目標・内容の全てを網羅するものではないことからも、調査結果が子どもの学力すべてを表すものではなく、学校の教育活動の一側面を示すものと考えています。しかし、一側面ではあるものの、本学習状況調査の結果を子どもたちの学習状況を客観的に把握するための資料の一つととらえ、今後の市の教育施策の充実や学校における子どもたちの個性や能力に応じた学習指導の改善のためにしっかりと役立てていきたいと考えています。

また、子どもたちに「確かな学力」を育むためには、学校だけでなく家庭や地域のご協力が必要です。そのためにも、子どもたちの学力や学習状況の現状を理解していただくとともに、学校教育活動にも積極的なご支援をいただくため、本年度も本市の状況および課題について公表することとしましたので、ご理解いただきますようお願いいたします。

１．調査の概略

（１）調査の目的

横須賀市立小・中学校学習状況調査を実施し、横須賀市の児童生徒の学習状況を把握・分析し、その調査結果を各学校の指導方法の工夫・改善および児童生徒の学習に役立て、横須賀市として必要な施策の策定に資することを目的としています。

（２）調査内容

小学校３年生：①国語（聞き取り　有）　②算数
※各教科小学校２年生までの履修内容を出題範囲としています。

小学校４年生：①国語（聞き取り　有）　②社会　③算数　④理科
※各教科小学校３年生までの履修内容を出題範囲としています。

小学校５年生：①国語（聞き取り　有）　②社会　③算数　④理科
※各教科小学校４年生までの履修内容を出題範囲としています。

小学校６年生：①社会　②理科
※各教科小学校５年生までの履修内容を出題範囲としています。

中学校１年生：①国語（聞き取り　有）　②社会　③数学　④理科
※各教科小学校６年生までの履修内容を出題範囲としています。

中学校２年生：①国語（聞き取り　有）　②社会　③数学　④理科
⑤外国語（リスニング　有）
※各教科中学校１年生までの履修内容を出題範囲としています。

中学校３年生：①社会　②理科
※各教科中学校２年生までの履修内容を出題範囲としています。

（３）公表について

・序列化や過度な競争につながらないようにするため、各学校の結果については、公表いたしません。

２．教科別結果の見方

各学年の教科別の結果については、「教科全体」および「基礎」と「活用」の結果について示しています。また、横須賀市の結果と共に、調査全体の数値を載せています。

※調査全体について：

同じ問題を受検した全国の児童生徒全体です。学年や教科によって異なりますが、母数は概ね 13 万人から 20 万人となっています。

３．横須賀市立小学校の結果

横須賀市立小学校教科別平均正答率

【小学校３年生】

	国　　語			算　　数		
	教科全体	基　礎	活　用	教科全体	基　礎	活　用
横須賀市	**68.5**	**69.6**	**63.9**	**69.5**	**74.9**	**43.4**
調査全体	73.7	75.7	65.5	74.5	79.5	50.5

各学年・教科の全体的な傾向および課題の見られる事項（小学校３年生）

【国語】

領域別に見ると、「話すこと・聞くこと」と、「読むこと」のうち物語の内容の読み取りについては良好な結果も見られましたが、「書くこと」については、昨年度も課題となっていましたが、改善が見られず、本市の国語における最大の課題であるといえます。

とくに、漢字の書き取りについては、一度習った漢字を繰り返し使う場面を設定すること、家庭学習課題を工夫すること等、児童の実態に即した指導が必要であると考えられます。

【算数】

「数の大小と不等号の意味の理解」、「分数の大きさの意味の理解」、「加法の結合法則を理解し、式の意味を考えること」、「身近なもののかさの単位についての理解」、「直角三角形の特徴の理解」といった内容について、課題が見られました。

課題がみられた単元や領域を中心に、児童の学習の定着状況を踏まえた授業づくりを進めていくことが求められます。

横須賀市立小学校教科別平均正答率

【小学校４年生】

	国　　語			社　　会		
	教科全体	基　礎	活　用	教科全体	基　礎	活　用
横須賀市	**61.1**	**63.5**	**50.6**	**61.8**	**65.4**	**47.3**
調査全体	68.1	71.3	53.7	65.3	68.0	53.6

	算　　数			理　　科		
	教科全体	基　礎	活　用	教科全体	基　礎	活　用
横須賀市	**69.0**	**75.2**	**47.4**	**58.2**	**60.6**	**50.2**
調査全体	74.6	80.2	54.7	64.7	67.4	55.3

各学年・教科の全体的な傾向および課題の見られる事項（小学校４年生）

【国語】

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」のうち「言葉の学習」に関わる部分と、「書くこと」（作文）については、課題が見られました。

小学校３年生と同様に、児童の実態に即した指導の工夫及び改善が必要であると考えられます。

【社会】

全体的に調査全体を下回っています。特に活用においては、調査全体を５ポイント以上、下回りました。また、観点別では、「社会的事象についての知識・理解」において、基礎的な用語・記号等の理解に課題が見られ、調査全体を大きく下回っている問題がありました。

記述問題に無解答が多い傾向や、後半の問題になるほど無解答率が高くなるといった課題も見られます。

【算数】

調査全体を上回る正答率となった問題もありますが、全体的に調査全体を大きく下回る結果となりました。問題別では、昨年度改善が見られた「文章問題を解くためのわり算の式」に関する問題で、本年度は調査全体を大きく下回る結果となりました。また、「整数から小数第一位の数を引くひき算」、「数の相対的な大きさの理解」、「分数の数直線上での表し方」、「余りを切り上げて処理する問題ができ、その理由を説明する」問題では、昨年度に引き続き、本年度も課題が見られました。

【理科】

全ての領域で、調査全体を下回る結果でした。「身近なしぜんのかんさつ」、「太陽と地面のようす」は概ね調査全体と同等の結果ですが、「こん虫のからだのつくり」、「こん虫のそだち方」、「じしゃくのせいしつ」については、調査全体を大きく下回っています。学んだことを日常で見られる事象に当てはめて考えたり、活用したりすることにも課題が見られました。

横須賀市立小学校教科別平均正答率

【小学校５年生】

	国　　語			社　　会		
	教科全体	基　礎	活　用	教科全体	基　礎	活　用
横須賀市	**67.1**	**69.8**	**55.0**	**51.9**	**50.6**	**57.0**
調査全体	73.8	76.6	61.2	58.5	57.7	62.2

	算　　数			理　　科		
	教科全体	基　礎	活　用	教科全体	基　礎	活　用
横須賀市	**59.9**	**64.2**	**42.8**	**62.3**	**66.7**	**47.2**
調査全体	67.3	71.8	49.2	68.8	73.0	54.2

各学年・教科の全体的な傾向および課題の見られる事項（小学校５年生）

【国語】

読むことのうち説明文の段落のまとまりの理解、第４学年配当漢字の書き取り、「書くこと」（作文）には課題が見られました。

また、漢字の書き取りにおいては、各学校の正答率の状況を踏まえ、指導方法の見直しや課題の出し方の工夫が必要です。

【社会】

全体的に調査全体を下回っており、昨年度より差が広がっています。特に、基礎においては、調査全体を７ポイント以上、下回っており大きな課題です。観点別では、「社会的事象についての知識・理解」において、基礎的・基本的な内容の定着に課題が見られます。特に、「県の様子」領域では、47 都道府県の名称と位置、地図の活用について、調査全体を大きく下回りました。また、資料を読み取ること、読み取った情報をもとに考えたり、表現したりすることにも課題が見られます。調査後半の無解答率が高くなっていくなど、昨年度までと同様の課題も見られました。

【算数】

昨年度の調査全体を大きく下回る問題が多いという、全体的な課題点について改善が見られませんでした。

児童の学習の定着状況や課題点等を十分に分析や把握をした上での、基礎的・基本的な知識および技能の確実な定着と、それらを活用する能力の育成を図る授業改善が求められます。

【理科】

全ての観点で、調査全体を下回る結果でした。「天気のようすと気温」、「月と星」の問題については、概ね調査全体と同等でしたが、「自然の中の水」、「物のあたたまり方」、「電気のはたらき」の問題については課題が見られました。特に、説明を記述する問題について、課題が見られました。

横須賀市立小学校教科別平均正答率

【小学校６年生】

	社　会			理　科		
	教科全体	基　礎	活　用	教科全体	基　礎	活　用
横須賀市	**61.5**	**61.0**	**63.5**	**57.7**	**63.7**	**39.7**
調査全体	65.3	64.5	68.4	59.9	65.8	42.1

各学年・教科の全体的な傾向および課題の見られる事項（小学校６年生）

【社会】

全体的に調査全体を下回っています。特に、基礎について課題があるといえます。領域別では、「国土の自然などの様子」や「情報産業や情報化社会」に、特に課題が見られました。記述問題に無解答が多い傾向や、後半の問題になると無解答率が高くなる傾向は、今年度も依然として課題となっています。

【理科】

調査全体と同等、または調査全体を上回る結果が見られた問題もありましたが、「人のたんじょう」、「ふりこのきまり」、「けんび鏡の使い方」の問題など、多くの問題で調査全体を下回り課題が見られる結果となりました。

４．横須賀市立中学校の結果

横須賀市立中学校教科別平均正答率

【中学校１年生】

	国　　語			社　　会		
	教科全体	基　礎	活　用	教科全体	基　礎	活　用
横須賀市	**66.4**	**68.4**	**59.9**	**62.1**	**63.3**	**56.5**
調査全体	70.4	73.1	61.5	63.6	64.6	58.5

	数　　学			理　　科		
	教科全体	基　礎	活　用	教科全体	基　礎	活　用
横須賀市	**68.0**	**70.1**	**60.4**	**56.6**	**63.8**	**40.9**
調査全体	71.9	74.1	64.2	61.4	67.3	48.3

各学年・教科の全体的な傾向および課題の見られる事項（中学校１年生）

【国語】

「書くこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は、昨年度と同様に課題が見られました。

学習指導要領を見ると、中学校１年生の指導事項は、小学校高学年の指導事項をほぼ踏襲していることがわかります。中学校での学びのスタートにあたって、小学校で指導を受けてきた生徒の現時点での領域別の習得状況を的確に把握し、特に弱い部分については計画的に指導を行っていくことが必要です。

【社会】

活用では概ね良好な結果も見られましたが、全体的には調査全体を下回る結果となりました。基礎的・基本的な学習内容の定着に課題があると考えられます。

領域別では、「我が国の歴史」、「我が国の政治」で、調査全体を下回っています。解答形式別では、短答問題や記述問題では無解答率が高くなる課題が見られました。

【数学】

「縮図を使って実際の直線距離を求める問題」で調査全体を上回るなど、昨年度と比較して結果の改善が見られた問題もありますが、「底面積と高さから角柱の体積を求める問題」、「文字を使った式が表す場面を選ぶ問題」など、中学校１年生での学習につながる基礎的・基本的な問題の一部で課題が見られました。生徒の学習内容の定着の状況等を十分に分析や把握をした上での授業展開を目指していくことが求められます。

【理科】

どの領域においても、調査全体を下回る結果でした。「植物のつくりとはたらき」の植物の体のつくりについての問題や「生物とかんきょう」では、良好な結果の見られる問題もありましたが、「植物のつくりとはたらき」の日光とデンプンの実験や「月と太陽」の三日月が見える時間について、「物の燃え方」についての問題では、調査全体を大きく下回る結果となり、課題が見られました。

横須賀市立中学校教科別平均正答率

【中学校２年生】

	国　語			社　会			数　学		
	教科全体	基礎	活用	調査全体	基礎	活用	教科全体	基礎	活用
横須賀市	**63.4**	**64.0**	**61.5**	**60.1**	**63.6**	**46.9**	**49.4**	**53.8**	**31.9**
調査全体	66.4	67.2	63.8	65.0	68.6	51.7	53.7	58.6	34.2

	理　科			外　国　語		
	教科全体	基礎	活用	教科全体	基礎	活用
横須賀市	**52.8**	**51.8**	**55.4**	**57.6**	**62.8**	**44.5**
調査全体	58.6	58.7	58.4	61.5	67.2	47.4

各学年・教科の全体的な傾向および課題の見られる事項（中学校２年生）

【国語】

領域別に見ると、「話すこと・聞くこと」では概ね良好な結果であり、「書くこと」（作文）において、昨年度は約 30%であった無解答率が、今年度は 18.7%と、大幅に改善されましたが、「書くこと」領域全体としては、調査全体をやや下回る結果となりました。

また、今年度も課題となったのが、小学校で学習した漢字の書き取りと、文法の指導における「単語」の理解でした。学校では、これらの知識の指導が行われていますが、その知識が確実に使えるものとして定着していない状況であると考えられます。

【社会】

昨年度よりも正答率は上昇していますが、全体的に調査全体を下回っています。

領域別では、「世界の地域構成」、「中世の日本」で調査全体を大きく下回っています。解答形式別では、短答問題や記述問題で誤答や無解答率が高くなっています。

【数学】

調査全体を上回る問題もありましたが、全体的に昨年度より正答率が下がったり、調査全体を下回ったりした問題が増えるなど、課題が見られる結果となりました。生徒の学習の定着状況を十分に分析し、把握した上での基礎的・基本的な知識及び技能のより確実な定着や、それらを活用する能力の育成を図る指導改善が求められます。

【理科】

全ての領域において調査全体を下回りました。「身のまわりの物質とその性質」では、調査全体を上回る問題もありましたが、「植物のからだのつくりとはたらき」、「気体の性質」、「火山」、「地層」などでは、調査全体を大きく下回りました。また、観点別では、「観察・実験の技能」、「自然事象についての知識・理解」に課題が見られる結果でした。

【外国語】

「聞くこと」については、英語を聞いたことの要点を捉えて理解することは概ね良好ですが、対話の内容を聞き取って場面や状況を捉えて適切に応答することに課題が見られます。

「読むこと」については、対話の流れを理解し適切な代名詞を選ぶなど、内容に合うように語形・語法を選ぶことや、場面や状況を捉えて適切な疑問詞を用いた疑問文を考えることに課題が見られます。

「書くこと」については、テーマに応じて文のつながりや構成を考えながら、まとまった内容の英文を主体的かつ積極的に表現しようとする姿が見られますが、場面を捉えて応答するような対話の流れに沿った英作文を書くことについては無解答率が高い傾向が見られるなど、理解が十分でない様子が見られます。また、日常生活でも用いるような使用頻度の高い単語を答える問題で無解答率が高くなっています。

横須賀市立中学校教科別平均正答率

【中学校３年生】

	社　会			理　科		
	教科全体	基　礎	活　用	教科全体	基　礎	活　用
横須賀市	**55.8**	**59.3**	**44.6**	**53.5**	**56.4**	**46.5**
調査全体	56.3	60.0	44.6	55.9	59.3	47.6

各学年・教科の全体的な傾向および課題の見られる事項（中学校３年生）

【社会】

全体的に調査全体とほぼ同程度で、概ね良好な結果でした。基礎に関しては、調査全体と１ポイント程度しか差が見られず、活用に関しては、調査全体と同じ正答率でした。領域別では、「世界と比べた日本の地域的特色」で調査全体を下回り、課題が見られました。解答形式別では、短答問題や記述問題で誤答や無解答率が高くなっています。

【理科】

多くの領域で、調査全体とほぼ同等でしたが、観点別に見ると「科学的な思考・表現」、「自然現象についての知識・理解」で調査全体を大きく下回り、課題が見られました。

また、単元別では、「前線の通過と天気の変化」の前線に関わる内容や、「電流の性質」の熱量に関する問題については、調査全体を下回る問題が多く、課題が見られる結果でした。

５．今後の取組について

各学校においては、本学習状況調査および全国学力・学習状況調査の結果をもとに、自校の成果と課題を分析し、課題の改善に向けた取組を行っています。また、教育委員会では、各学校の取組に対する指導助言を行い、子どもたちの学力向上に向けた支援を行っています。

さらに、これまでの本学習状況調査や全国学力・学習状況調査の結果の分析から、子どもたちの学力向上には、家庭学習の取組等、学習習慣の定着とともに、基本的な生活習慣や家族とのコミュニケーションも大きく影響していることがわかってきています。そこで、学校と家庭が連携して取組を進めていくことが重要であると考えています。

教育委員会では、子どもたちの確かな学力を育成する上で、平成 30 年度から４カ年計画で策定した「横須賀市学力向上推進プラン」をもとに、学力向上に向けた学校、家庭、教育委員会の主たる取組を次のように定め、学校と連携・協力しながら取組を進めています。

【学校での取組】

◎「学校が取り組むべき３つの提言」

①学力向上に向けた課題解決のために、教育課程を編成し、組織的に取り組みます。

②指導力の向上を図るために、校内研究を充実させます。

③学習内容を定着させるために、目標と指導と評価が一体となった授業づくりを行います。

【家庭での取組】

・学習習慣をはぐくむ学習環境づくり

・家庭学習啓発リーフレット等を活用した学習習慣の確立

・学校の取組と連携した取組（生活習慣の改善等）

【教育委員会の取組】

・各学校が計画・作成する「学校重点プラン」への指導助言

・本学習状況調査の結果等を踏まえた各学校への指導助言

・子どもの学力向上を支援する取組（学習支援員の派遣等）

・学校と家庭との連携の推進（家庭学習啓発リーフレットの作成・配布等）